

看護管理 第9巻 総目次

1999年(1-12号)

(表示は、筆署名(所属)：題名，号数，ページ，なお，所属は発表当時のもの)

【特集】

1 年目ナースの危機(1号)

- 若狭紅子(東京女子医科大学)：危機的状況にいる新人看護婦－現状と求められる対応，1，6-13.
林千冬(群馬大学)他：国立大学医学部附属病院における新卒看護婦(士)712名の意識と実態，1，14-21.
林千冬(群馬大学)：新人ナースを専門職として育むために－「送り出す側」として現場に望むこと，1，22-27.
神楽坂正美：「この職場でよかった」と言える新人教育を，1，28-33.
北村万里(広島赤十字・原爆病院)：ICU新人ナースの6か月－新しい環境の中で何を感じたか，1，34-37.
城美奈子(札幌麻生脳神経外科病院)：新人を支える工夫－「言葉」と「絵」で語る3か月研修，1，38-40.

地域とのネットワークづくり(2号)

- 長谷川美栄子(東札幌病院)：保健・医療・福祉を統合したケアの展開をめざす，2，92-97.
橋本眞紀(かとう内科並木通り病院)：在宅ホスピスケアを実現するネットワークづくり，2，98-104.
矢島祥吉(上大類病院)：[インタビュー]ともに支え合う地域福祉社会をめざす地域在宅ケア，2，105-111.
安藤繁(老人保健施設若宮苑)：多職種で進める患者中心のケア，2，111-112.

病院における死後の看護(3号)

- 守山伸子(鶴巻温泉病院)：老人病院における死後の看護－死者への畏敬の念と遺族への配慮を，3，172-177.
田中美枝(兵庫県立こども病院)他：産科における死後の看護－新しい命を失った家族へのサポート，3，178-183.
八木澤壯一(東京電機大学)：[コラム]病院や霊安室の新しい兆し，3，183.
荒井みつ子(防衛医科大学校病院)：「患者さんの死を通して学ぶ」－新人を対象にした死後のケア教育，3，184-188.
山内真知子(慈心会村上病院)：[インタビュー]人と出会うこと，人の死を悼むこと，3，189-192.
井部俊子(聖路加国際病院)：[インタビュー]死後のケアと環境をどう考えるか，3，193-195.

患者にとっての退院を考える(4号)

- 辻本好子(ささえあい医療人権センターCOML)：患者から見た退院問題，4，250-254.
東美智子(青梅市立総合病院)：[インタビュー]患者の理解を得るために，4，255-262.
取出涼子(神奈川県大学病院ソーシャルワーカー連絡会)：転院援助困難事例から退院を考える－大学病院ソーシャルワーカーの立場から，4，263-269.
石田昌宏(日本看護協会)：早期退院促進の中で適切な医療を提供するには，4，270-274.
大澤栄子(湘南鎌倉総合病院)他：日帰り手術を選択した患者が望むもの，4，275-280.

チーム医療のための環境づくり－浦添総合病院の看護(5号)

- 宮城敏夫：仁愛会の理念と看護，5，336-341.
島袋豊子：時代性を取り入れた勤務体制づくり，5，342-348.
新里康代：オーダリングシステムの導入と看護業務の見直し，5，349-353.
儀部米子：看護職主導による入退院調整，5，354-359.
町田尊他：24時間救急医療再開への取り組み，5，360-364.
宮城恵子：チームの絆を強めたクリティカルパス導入，5，365-369.
大湾明美：患者の出口を求めている在宅新規事業の開発，5，370-376.

日帰り手術の現在(6号)

- 高島尚美(埼玉県立大学短期大学部)他：日帰り手術と看護の課題－湘南鎌倉総合病院での患者アンケートから，6，414-420.
村島さい子(湘南鎌倉総合病院)：[コラム]アンケートの客観的分析から得られるもの，6，419.
篠崎伸明(湘南鎌倉総合病院)：4000例の経験から今後の日帰り手術を考える，6，421-427.
高田聖子(兵庫県立こども病院)他：小児日帰り手術の現状と看護婦の役割，6，428-433.
村田洋(兵庫県立こども病院)：日帰り手術における麻酔科医の役割－今後への提言，6，434-439.
伏見清秀(厚生省保険局医療課)他：診療報酬上の評価とこれからの見通し，6，440-444.

カルテ開示時代の看護記録(7号)

岩井郁子(聖路加看護大学):カルテ開示時代の看護記録をどう考えるか, 7, 502-507.

上谷早苗(協立総合病院):[インタビュー]カルテ開示の実際とその効果ーベッドサイドにカルテを配布, 7, 508-514.

樋口範雄(東京大学):法的に見た診療記録開示の意義, 7, 515-519.

太田加世(日本看護協会):日本看護協会の看護記録開示に関する指針がめざすものー「看護記録の開示に関する検討プロジェクト」の報告と提言, 7, 520-523.

[資料]日本医師会診療情報提供に関するガイドライン検討委員会中間報告 医療情報の適切な提供を实践するための指針について/国立大学附属病院における診療情報の提供に関する指針(ガイドライン), 7, 524-527.

黒江ゆり子(大阪市立大学看護短期大学部):看護記録の基本についてー看護記録の意味と方法, 7, 528-534.

医療事故は防げるか(8号)

小島通代(日本赤十字社福岡県支部):看護単純ミス防止への提案, 8, 589-594.

山口千鶴子(富山医科薬科大学附属病院):医療事故を防ぐ土壌づくりをめざしてー富山医薬大病院の取り組み, 8, 595-599.

佐竹純子(富山医科薬科大学附属病院):看護ケア安全対策委員会における活動の実際ーニアミスの事例を分析することから, 8, 599-602.

野村明美(横浜市立大学看護短期大学部):事故を教育の問題として捉えるー基礎教育の立場でできること, 8, 603-609.

岡崎悦夫(新潟市民病院):[インタビュー]事故防止と医療の質確保ー現場のジレンマから考えること, 8, 610-615.

[資料]医療事故防止についての医療界の見解, 提言, その他の対応, 8, 616-619.

婦長・主任のための看護過程と看護診断(9号)

松浦真理子(東京厚生年金病院):看護診断で看護がどう変わったか, 9, 666-670.

数間恵子(東京医科歯科大学):看護過程・看護診断の基本を振り返るー新人教育の前に確認したい知識, 9, 671-677.

黒田裕子(日本赤十字看護大学):看護記録の提案, 9, 678-684.

加藤千津子(旭川医科大学):看護過程・看護診断とコンピュータシステム, 9, 685-690.

市川幾恵(昭和大学病院):クリニカル・パスに看護過程・看護診断をどう生かすか, 9, 691-696.

斉藤恵美子(都立府中療育センター)他:ウェルネス型看護診断の活用ー重症心身障害児・者施設において, 9, 697-701.

新田幸代(医療法人悠仁会新田クリニック):自らの主観を大切にしたいケアをー訪問看護から生じた看護過程への疑問, 9, 702-705.

抑制・隔離は本当になくせるのか(10号)

佐原美智子(陽和病院):精神科における抑制・隔離の現状と問題点, 10, 754-758.

道又元裕(東京女子医科大学病院):ICU病棟における抑制ー抑制の基準の必要性, 10, 759-763.

江口隆子(札幌麻生脳神経外科病院):脳神経外科病棟における抑制・隔離ー抑制をせざるを得ない場合にどうするか, 10, 764-769.

朝田隆(国立精神・神経センター武蔵病院):[インタビュー]一般病棟における痴呆患者への対処法, 10, 770-775.

リスクマネジメント(11号)

中島和江(大阪大学)・鶴田恵子(東京医科歯科大学医学部附属病院):[対談]医療の質を保证するためのシステムづくりーリスクマネジメントの基本理念に立ち返って, 11, 832-839.

川村治子(杏林大学):医事紛争の防止ーなぜ紛争は起き, どうすれば防げるのか?, 11, 840-846.

芳賀繁(立教大学):医療事故を他領域から考察するー人間工学から見た医療事故, 11, 847-848.

松野良一(TBSマルチメディアセンター):医療事故を他領域から考察するージャーナリストから見た医療事故, 11, 848-850.

大内正俊(東芝アドバンスシステム株式会社)他:医療事故を他領域から考察するー原子力発電所の安全対策を研究した立場から見た医療事故, 11, 850-852.

武井勲(青山学院大学):医療事故を他領域から考察するー病院とヘルスケア機関のリスクマネジメントー医療事故防止対策に成功する10大理由, 11, 852-853.

[取材記事]日本心理学会第63回大会ワークショップー医療事故防止に心理学はどのように貢献できるか, 11, 854.

患者になって分かったケアの本質(11号)

前川幸子(横浜国立大学大学院):患者のまなざしで"看護"を捉える, 11, 855-859.

小林勝子(滝川市立病院):人は経験によってしか学べないー私の「タ・パテマータ・マテマータ」, 11, 860-862.

小松理恵(仙台市立病院):死の臨床で経験した心の痛

みー父からの贈り物 オアシスの心, 11, 863-866.
田中啓二(株式会社大丸): 根本的な改革を迫られている日本の医療サービスマネジメント, 11, 867-873.

救急医療の現在(12号)

木村チヅ子(慶應義塾大学病院)他: [座談会]2例目の脳死からの臓器移植ー慶應義塾大学病院の経験, 12, 914-925.
山崎美子(高知赤十字病院): 脳死からの臓器提供手術ー高知赤十字病院の場合, 12, 926-930.
土井英史: 救急医療における感染対策ー易感染患者および医療従事者を守るための具体策, 12, 931-937.
内藤とも子(横浜市立大学医学部附属浦舟病院)他: 認定看護師導入が現場に与えた影響, 12, 938-944.
伊藤成治(救急医療コンピュータネットワーク): 救急隊員から見た救急部門への注文と期待, 12, 945-948.
森田孝子(信州大学医学部附属病院): 救急医療における課題と看護管理, 12, 949-955.

【焦点】

看護必要度をめぐって(1-3号)

- ①野村陽子(厚生省保険局医療課): 看護必要度と診療報酬ー看護料算定への導入について, 1, 76-81.
- ②平井さよ子(横浜市立大学看護短期大学部)他: 看護必要度評価ツールの検討ー看護必要量の評価基準に関する研究, 2, 154-158.
- ③嶋森好子(東京都済生会向島病院): 看護必要度評価法確立に向けた看護業務量調査ー予備調査の結果と今後への示唆, 3, 230-236.

【特別論文】

出口禎子(東京慈恵会医科大学): 身体的ケアの治療的意味ー看護の役割の理論的根拠, 10, 776-780.
三原晴美(セントエリザベス・メディカルセンター): ボーダーラインの患者管理とその病棟管理, 10, 781-788.
三輪建二(お茶の水女子大学): 成人期の学習と教育ー院内教育の理論と実践, 12, 963-969.

【特別記事】

高口榮子(長崎県立島原温泉病院): 看護とカウンセリナー看護職のストレスと自己ケア, 1, 42-49.
大山太(東海大学医学部附属病院): 救命救急センターにおける看護の役割ー多くの人々に伝えたい「看護の心」, 1, 50-55.
川上千英子(フォーカスチャータニング® 研究会代表): [インタビュー]フォーカスチャータニング® の可能性ー情報の共有と看護の質の向上に向けて, 2, 113-118.

加納隆(三井記念病院): 携帯電話と電磁波障害ー医療機器の誤作動について, 3, 204-211.

出口禎子(東京慈恵会医科大学): 臨床看護婦の抱える無力感の意味と学習への期待, 4, 282-286.

武井麻子(日本赤十字看護大学): ドイツ介護施設を訪ねて, 7, 536-540.

多尾清子(関西医科大学): 医療統計学の応用・実践に向けて, 7, 542-545.

山内真知子(慈心会村上病院): 「管理」に始まらない看護管理の話, 8, 627-632.

信田さよ子(原宿カウンセリングセンター): 援助論は援助者論であるー“アディクションアプローチ”から見えたこと, 10, 789-792.

寶田穂(大阪市立大学看護短期大学部): フィールドワークの経験ー研究者として臨床に入るー患者間の関係に焦点をあてて, 11, 874-879.

古城門靖子(神戸大学医学部附属病院): フィールドワークの経験ー研究者として臨床に入るー“しがみつく患者”との関わり, 11, 880-884.

宮川操(徳島大学医学部附属病院)他: 集学治療病棟への患者情報システム(Care Vue)の導入と記録の電子化, 11, 885-890.

松浦謙二(ジャクソン記念病院): 米国の救急医療事情ーその1 日本型救急医療との比較, 12, 956-961.

【特別対談】

李啓充(マサチューセッツ総合病院)・武井麻子(日本赤十字看護大学): 患者の権利と医療者の役割ー患者アドボカシーをめぐって, 8, 581-587.

【特別座談会】

藤村正哲(大阪府立母子保健総合医療センター)・清水哲郎(東北大学)・横尾京子(広島大学): 求められる医療者の価値観の変容ー患者と医療者の意識のズレはなぜ起こるのか, 9, 708-716.

【グラフ】

患者さんもチームの一員ー浦添総合病院のチーム医療, 5, 327-330.

横井郁子(東京医科歯科大学): 病院・地域を動かす看護のおもしろさー浦添総合病院訪問記, 5, 331-334.

【調査研究】

相馬朝江(神奈川県立衛生短期大学): 臨終から退院までの看護ーグリーフケアの視点から, 3, 197-201.

【実践報告】

川浪タツエ(長崎大学歯学部附属病院): 歯学部附属病院から医学部附属病院への派遣研修ー研修の概要と

アンケート結果, 6, 446-450.
鈴木優子(富士市立中央病院): 中堅ナースのリーダー
研修-受講後の課題達成を核にして, 6, 451-456.
横手芳恵(札幌医科大学)他: 神経難病専門病院におけ
る看護カウンセリングの試み, 9, 717-723.

【文献レビュー】

阿部俊子(群馬大学): 米国におけるクリティカルパス
の効果研究の現状, 2, 120-130.

【インタビューシリーズ-現場での人材育成】

- ①奥野善彦さん(弁護士・北里大学)・[聞き手]鹿毛雅
治(慶應義塾大学): 法律家としての人間性を育てる,
2, 131-137.
- ②高嶋妙子さん(聖隷浜松病院)・[聞き手]藤岡完治(横
浜国立大学): 「任せる」ことの意味を知る, 4, 291-
297.
- ③平尾隆弘さん(『文芸春秋』編集長)・[聞き手]澤本和
子(日本女子大学): 編集者として育つ, 6, 457-463.
- ④道又元裕さん(東京女子医科大学病院)・[聞き手]藤
岡完治(横浜国立大学): ICUで人を育てる, 8, 635-
642.
- ⑤森田孝子さん(信州大学医学部附属病院)・[聞き手]
藤岡完治(横浜国立大学): 1人ひとりに合った教育
を, 10, 794-800.

【環境?!】

寛淳夫(国立医療・病院管理研究所):

- ①「迷い」を解くランドマーク, 1, 1.
- ②ベッドが備えるべき性能は何か, 2, 87.
- ③さまざまな椅子, さまざまな座り方, 3, 165.
- ④無防備なプライバシー侵害への配慮, 4, 243.
- ⑤「障害」のないエレベーター, 5, 323.
- ⑥「なじみ」の上に加える工夫, 6, 407.
- ⑦生き生きとした空間, 7, 495.
- ⑧蝶の舞う光庭, 8, 575.
- ⑨共有できる調理の場, 9, 661.
- ⑩落ち着いた生活空間, 10, 749.
- ⑪病室につけられた便所とシャワー, 11, 827.
- ⑫人の動作に対応したしつらえ, 12, 909.

【安全な医療のために-医療事故予防への提言】

山内桂子(北九州市立女性センター), 山内隆久(北九州
大学):

- ①医療の安全-連載にあたって, 5, 378-383.
- ②責任追及から原因究明へ-事故調査委員会の役割と
心理学の視点, 6, 470-475.
- ③信頼・納得できる医療の条件-説明責任の確立と患
者の自己決定, 7, 553-558.
- ④患者・医療者へのサポート-医療事故の影響とその

回復過程, 8, 621-626.

- ⑤「個」から「組織」へ-安全をめざす組織の課題, 9, 731
-737.
- ⑥〈最終回〉安全文化を創る-医療事故予防と国民のコ
ンセンサス, 10, 802-807.

【ナイチンゲール-在宅医療へのまなざし】

小川典子(北里大学):

- ①2000年にナイチンゲールの最終目標は実現されるの
か, 1, 74-75.
- ②看護と介護, 2, 152-153.
- ③新しい概念のための新しい言葉, 3, 228-229.
- ④『看護覚え書』の中心概念は「環境」ではなかった, 4,
300-301.
- ⑤福祉の転換点, 5, 384-385.
- ⑥介護実習が普通教育に取り入れられる?!, 6, 464-
465.
- ⑦歴史研究の意義, 7, 546-547.
- ⑧時代閉塞の現状, 8, 644-645.
- ⑨アイデンティティの問題, 9, 724-725.
- ⑩女性の歴史と女性性(ジェンダー), 10, 808-809.
- ⑪医療における人間学, 11, 892-893.
- ⑫〈最終回〉21世紀にむけての在宅介護, 12, 970-971.

【病院にボランティアがやってきた ボランティア, 患 者, 職員の交流】

城美奈子(札幌麻生脳神経外科病院)他:

- ①子どもたちが病院ボランティアに踏み出した, 4, 302
-306.
- ②子どもたちの絆と参加校の広がり, 5, 386-389.
- ③子どもたちがボランティアの醍醐味に触れた, 6, 466
-469.
- ④患者さんとの触れ合いに挑戦, 7, 548-551.
- ⑤患者さんと無理なく触れ合える喜び, 8, 646-650.
- ⑥子どもボランティアとともに育まれたもの, 9, 726
-730.
- ⑦歯科衛生士の専門技能を生かしたボランティア活動,
10, 810-814.
- ⑧人生の達人たちによる病院ボランティア, 11, 894-
897.
- ⑨〈最終回〉定年退職後の人々によるボランティア活
動, 12, 972-975.

【クリティカルな患者の看護アセスメント- FANCAP モ デル】

池松裕子(国際医療福祉大学):

- ①クリティカルな患者のアセスメントの特徴, 1, 68-
72.
- ②体液のアセスメント, 2, 146-150.
- ③ガス交換のアセスメント, 3, 222-226.

- ④栄養のアセスメント, 4, 308-312.
- ⑤コミュニケーションのアセスメント, 5, 390-394.
- ⑥活動のアセスメント, 6, 478-482.
- ⑦痛みのアセスメント, 7, 562-565.
- ⑧急性心筋梗塞患者のアセスメント, 8, 654-658.
- ⑨慢性閉塞性肺疾患患者のアセスメント, 9, 740-743.
- ⑩食道がん根治術後患者のアセスメント, 10, 818-822.
- ⑪下部消化管穿孔患者のアセスメント, 11, 902-906.
- ⑫<最終回>重症熱傷患者のアセスメント, 12, 980-984.

【白衣のポケット】

志水夕里(看護婦) :

- ①看護のかたち, 4, 313.
- ②重い夜, 5, 396-397.
- ③ほほえみの理由, 6, 476-477.
- ④忙しさの意味, 7, 560-561.
- ⑤15分間, 8, 652-653.
- ⑥ナースのバイタリティ, 9, 738-739.
- ⑦ストップ, 10, 816-817.
- ⑧生活の援助, 11, 900-901.
- ⑨看護する手, 12, 978-979.

【徳島大学病院看護部の変革】

浅野水器子(徳島大学医学部附属病院)・松下博宣(ケアブレインズ) :

- ①自己目標管理, 4, 314-320.
- ②看護業務量調査用紙の作成ーアクション・ベースト・コストイングの導入, 5, 398-404.
- ③看護業務量調査に基づく業務改革計画の策定, 6, 484-490.
- ④<最終回>業務改善の成果と評価および継続的質改善の試み, 7, 566-572.

【高嶋妙子のページジャック!】

高嶋妙子(聖隷浜松病院) :

- ⑩元気の秘訣, 1, 56-57.
- ⑪ついている人生, 2, 138-139.
- ⑫<最終回>カルテ開示, 3, 214-215.

【ベスにふれて 病棟間交流がもたらしたもの】

- ⑥山下満子(東京大学医学部附属病院) : 海外研修の意味, 1, 58-62.
- 狭川庸子(東京大学大学院) : [Special Book Review] 『ライフサポート』を読んでーナースとしての自分とベスでの研修を振り返り思う, 1, 63-66.
- ⑦小中昌子(東京大学医学部附属病院) : 整形外科病棟の現在ー術後のペインコントロールを学んで, 2, 140-145.
- ⑧<最終回>加藤光實(新潟県立看護短期大学) : 在院日

数短縮後の反省と確信, 3, 216-220.

【BOOK REVIEW】

藤田敬一郎(地域活動研究所)評 : T. M. マレツリ編, 細野容子他訳『実務にいかす看護管理の基本』, 1, 41.

浅川典子(埼玉県立衛生短期大学)評 : 岡本祐三他著『高齢者医療福祉の新しい方法論ー疾病診断から総合評価へ』, 3, 202.

秋山智弥(新潟県立看護短期大学)評 : 李啓充著『市場原理に揺れるアメリカの医療』, 3, 212.

鈴木優子(富士市立中央病院)評 : 佐藤紀子著『変革期の婦長学』, 4, 288.

矢島祥吉(群馬県在宅介護支援センター連絡協議会)評 : 白澤政和著『ケアマネジメントハンドブック』, 4, 298.

井部俊子(聖路加国際病院)評 : 佐藤直子著『専門看護制度 理論と実践』, 7, 535.

佐藤八重子(虎の門病院分院)評 : 加藤光宝編『新人ナース仕事始めのシナリオ』, 8, 633.

武井麻子(日本赤十字看護大学)評 : 小川典子著『ナイチンゲール『看護覚え書』の構造を読む』, 9, 707.

なだいなだ(作家・精神科医)評 : 信田さよ子著『アクションアプローチもうひとつの家族援助論』, 10, 793.

池松裕子(国際医療福祉大学)評 : 数間恵子他編『手術患者のQOLと看護』, 10, 815.

大島敏子(横須賀北部共済病院)評 : 多田徹祐他著『婦長・主任のホントの仕事 ケースでみなおす組織と役割』, 11, 891.

緒方泰子(東京大学大学院医学系研究科)評 : 介護保険システムのマネジメント, 12, 962.

【ニュース&レポート】

医療者, 在宅ケア関係者を対象にビジネススクールを開校, 3, 238.

【私のひと工夫】

藤本文代(倉敷中央病院)他 : 乳房冷罌法用品ーキューティー・ミル・クール, 1, 73.

岡山容美(国立療養所石川病院)他 : らくらく足浴シャワー臥床したまま気持ちよくできる足浴法, 2, 151.

【ドロシーモトヤマのワンポイントアドバイス】

ドロシーモトヤマ(教育コンサルタント) :

- ①笑って, 楽しく学ぶ, 10, 801.
- ②空気をかき乱す, 11, 899.
- ③チャンネル ウィフム(W.I.L.F.M.), 12, 976-977.